
 <書 評>

筋の構造と機能

編集 酒 井 敏 夫 (東京慈恵会医科大学教授)

遠 藤 実 (東北大学教授)

杉 田 秀 夫 (東京大学助教授)

福岡大学教授

富 田 忠 雄

600 頁以上を批判的な目で読み通した感じからすれば、“筋の構造と機能”は非常に立派な内容の本である。最初に医学書院から書評についての依頼があった時、普通の程度のものだらうと思って、酷評になっても良ければと引き受けたが、著者のリストを見たとき、これはしまったと感じた。何しろ、それぞれの分野での大家によって書かれているので、批判的なことは書き難いような気がしたからである。しかし、読み進むにつれて、私の最初の予想が間違っていたことが分かってきた。

筋肉についての研究は組織学、生理学および生化学の各分野で最近非常に発展を示しているが、それらに対する日本人による寄与は実に大きいものがある。執筆者は正に各方面における研究の指導的役割を果たしている人達である。筋肉の研究といっても、随分と幅広く、しかも非常に深くなって来つつあるので、各分野にわたって最新の知識を取り入れ、それらを充分理解して行くことは不

可能になりつつある。しかし、やはり良い研究を行うには広い範囲にわたって常に目を開いておく必要が感じられる。このためには、どうしても良い解説書が欲しくなるものである。この本はまさしくこの目的にかなったもので、適切な企画が成功したものと認められる。筋肉に関する殆んど全部の分野にわたって歴史的な考察や基本的な事柄についての解説を含み、現在の研究成果がどのような段階であるか、今後の問題点がどのようなものであるか、また臨床的な面にまで及んで明確に述べられている。特に興奮収縮連関機構および収縮機構に関しては非常に高いレベルのものが含まれている。

注意してみないと内容の配列や、内容の程度などに不統一であるような印象も与えかねからが、全体的に通してみれば、なるほどと思えてくる。部位によっては重複しているのが気にもなるが、一つの章だけを読む場合には理解を助け、読み易くする利点もあるので止むを得まい。た

だ一頁が60円近くにもつく高価なものであるだけ、頁数を減らす努力がどの程度なされたものだろうか。内容が大切であって、価格は付随的なものであるとする方針からすれば気にするほどのことでもないかもしれない。高価な本（内容と価格の両面から）という点で一番気になったのは文献の引用の雑なことである。人名、年代が本文中と文献リスト中で違っているのが目立つし、アルファベット順の乱れが気になる。これらは枝葉のことであるとするには少し問題があるような気がする。これらは編集者の責任でもあろう。

とにかく、内容としては立派な本であることは間違いない。これだけのものに匹敵する本は外国にも見当たらないと思われるし、英語で出版された方が良かったような気がしてならない。逆にいえば、このような本が発行できるということは、日本での学問のレベルがいかに高いものであるかを示すものである。筋肉に興味をもっている人にとっては、この本がますます理解を深めることに役立ち、また今後筋肉についての研究を始めようとする人にとっては、良き指導の役を果たすものと信じられる。

(B 5・頁638・図 300・写真 117・
1977・¥35,000・¥300・
医学書院刊)